

絆で災害につよいまちづくり



【鳴子学区】

■世帯数：3,045 世帯

■人 □：6,888 人

■面積：0.729 k m²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・ 区政協力委員を対象とした救急救命講習会を、鳴子コミュニティセンターで、緑消防署および鳴子消防団員の指導のもと実施している。
- ・ 自主防災訓練は、鳴子小学校で開催し、災害の怖さを知ってもらい災害への意識を高めるためのビデオ上映を行っているほか、楽しく参加してもらおう工夫の一つとして、親子が防火衣を着て行う放水訓練を実施している。延べ参加者数は約 280 人。



【住民へのPR方法】

チラシの回覧

【アピールポイント】

地域調査票をもとに、安否確認の仕組みを構築している。個人情報の問題は、本人の同意を得ることで解決した。

2 きっかけ、背景

高齢化が進み、災害時に自力で避難が難しい世帯が増えてきたことや、いつ起こるかわからない東海・東南海地震への対策から、学区連絡協議会として防災への取り組みに力を入れている。また、自然環境への配慮から、学区住民の参加により町の美化運動を毎年11月に実施している。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、自主防災組織
計24人

(2) 運営協力

鳴子団地については、団地の建て替えで人の移動が大きく、運営協力を募ることは現時点では難しい。町内会・自治会については若手リーダーではないが、自主防災活動に主体的に関わってくれる人材がいる。

4 実施のスケジュール

H24年 自主防災訓練参加者募集のチラシ配布
7月

救急救命リーダー講習会
(区政協力委員参加し、講習会で学んだ内容をもとに「自主防災訓練」で学区住民の指導を行う)
8月

9月 自主防災訓練の実施

5 成果と課題

(1) 成果・効果

住民間の交流が深まった。

(2) 苦労した点

参加者の確保に苦労した。

(3) 今後の課題・展望

他団体との協力が今後の課題である。

(4) メッセージ・アドバイス

高齢者の孤立死を少しでも防ぐために、救命訓練（人工呼吸・心臓マッサージ・AED）を区政協力委員のみならず、学区住民にも習得してもらうことが重要です。

